



SINCE 1990

廃棄物学会 東海・北陸支部 会報

No.7 廃棄物学会 東海・北陸支部

巻頭言

資源循環型コミュニティー創成のために

支部長 伊藤秀章



廃棄物学会東海・北陸支部が平成14年4月に設立されて2年が過ぎました。役員任期は2年ですから、ちょうど設立後最初の第1期が終わったことになります。ただし、その前の約2年間の東海・北陸地区連絡会として助走期間がありましたので、あわせて4年余りの期間を東海・北陸地域における廃棄物学会の活動に関わってきました。本年3月26日に開催された支部総会で、学会本部の役員体制との周期を併せるために、現支部長、副支部長、常議員・幹事のほぼ全員が、引き続き1年の任期で役員を続けることになりましたので、よろしくお願い致します。

連絡会の頃の活動も含めて、この4年間の活動を積み重ねてきた結果、良い意味でも、悪い意味でも、本支部活動のスタイルがほぼ定着してきたように思います。昨年度は、年1回の市民フォーラム・総会のほか見学会と講習会を開催しました。また、会員相互の情報交換のために、支部会報の発行、ホームページの開設・更新をおこなってきました。これらの活動の企画・実施・承認のために幹事会・常議員会・総会の開催や事務局運営も軌道にのってきました。

市民フォーラムは毎年異なったテーマで開催していますが、いずれも好評でした。これまで「都市ごみの減量化をめぐる市民フォーラム」、「生ごみの減量化に挑む」、「いま、改めてリサイクルを問い直す」、「市民がつくる循環型社会の将来像」など、市民の関心の高いテーマを取り上げ、大学・自治体・企業の研究者や市民を含む幅広い層からの話題提供をして頂き、パネル討論をおこなってきました。本年3月の市民フォーラムでは、名古屋市のごみ減量化に取り組んできた当事者（ステークホルダー）や市民、研究者によるホットな議論が飛び交い、時間が経つのが惜しまれるほどの充実した内容となりました。

見学会では、これまでに廃プラリサイクル工場（新日鐵(株)名古屋製鐵所）とエコハウス・小牧（小牧リサイクルプラザ）を訪ねましたが、今年は三重県のRDFプラントとセメント化リサイクル工場の見学を計画しています。このように、見学会は廃棄物処理に関わる施設・工場における最新の技術や安全管理の現場を見るよい機会であり、今後も続けていきたい行事です。

昨年、はじめて開催した「廃棄物処理技術」講習会は、企業や大学・公的研究機関の中堅の技術者・研究者を対象とした廃棄物処理に関する分野横断的な研修の場となりました。幸い当支部は第一線でご活躍中の講師陣を大勢抱えていますので、若手のレベルアップには貢献できるのではないかと期待しています。

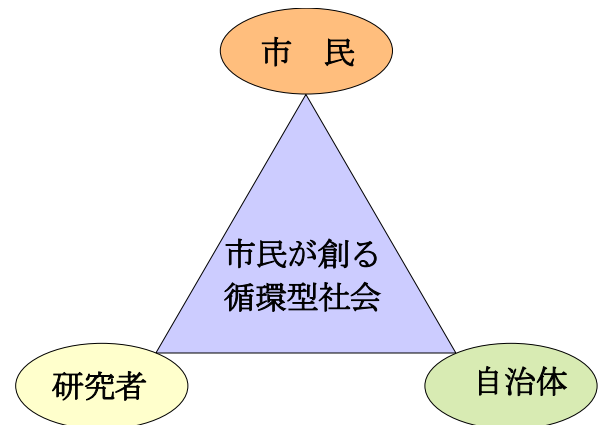
このように、当支部の活動は小規模ながらも、それぞれ私どもが目指す循環型社会創成のための活動として重要な役割を果たしてきたと考えています。しかし、一方ではまだ多くの不十分な点もあり、関係者の今後の努力と協力が望まれます。そのひとつに支部活動の多くが愛知県・名古屋市に集中しており、東海・北陸支部の他地域のかたにとって疎遠なものになってはいなかという懸念があります。この問題については、先の常議員会でも議論を重ねてきており、今後は他県の常議員を中心に地域の諸問題を扱った講演会やシンポジウムを企画して頂き、支部としても財政的な援助をしていきたいと考えています。会員の方からの積極的な提案をお願いしている次第です。

恒例「市民フォーラム」

研究者と市民の協働

語られる

東海・北陸支部主催の市民フォーラムが、3月26日（土）10時から16時まで、まる1日かけて名古屋市の金山にある名古屋都市センターにて開かれました。市民フォーラムは毎年、支部総会に合わせて開催されており、今まで循環型社会構築に向けて、廃棄物問題やリサイクル等をテーマに掲げて研究者、自治体、市民が一同に会して交流してきました。今回は「循環型社会の創生が国の目指すべき大きな社会目標とされていますが、私たち市民がこの社会をどのようにイメージし、そのための道のりはどうすれば拓かれるかを議論してみませんか。」との呼びかけで開かれました。ごみ減量に取り組んできた名古屋を取り上げ、「市民が創る循環型社会の創生研究」に取り組んできた研究者や市民、自治体関係者の報告を聴くとともに、目指すべき循環型都市の将来像が語られました。研究者、市民、自治体の各講師から実践を伴った生き生きとした内容の話題提供があり、その後話題提供者を交えたパネル討論が石川雅紀氏（神戸大学）をコーディネーターに迎えて行われました。話題提供は柳下正治氏（名古屋大学、研究者代表）、徳光岳穂氏（ステークホルダー会議参加者）、奥田宗昭氏（市民会議参加者）、村瀬慎助氏（市民会議参加者）、古谷伸比古



氏（名古屋市環境局）よりなされました。話題提供では、それぞれの発表者の豊かな実践が報告され、実り多い討論になりました。議論では、市民の代表者が研究者との協働を進める中でごみ問題をはじめとする環境問題に目覚め、今や「素人からプロの域に達した。」と発言しました。これは循環型社会の構築は市民が主人公になってはじめて実現するものであり、そのために果たす研究者や自治体、廃棄物学会東海・北陸支部の役割を示唆する貴重な意見でした。また、森口祐一氏（国立環境研究所）より「循環型社会の理念・理想と現実～容器包装リサイクルを例として～」の総合講演がありました。

名古屋市の藤前干潟をごみ処分場にするとの計画を中止させ、環境保全を実現した市民運動は、その後自治体主導によるごみ減量化運動へと発展し、着実にごみ減量化を実現しています。今日、元気な名古屋における環境保全の活動も廃棄物学会東海・北陸支部の果たす役割の大きいことが実感させられた市民フォーラムでした。

（鈴木憲司記）

支部総会報告

全ての議案 承認される

東海・北陸支部総会が、3月26日（土）16時15分～17時、68名の出席のもと、名古屋都市センター大研修室にて開催されました。総会では、平成16年度事業報告及び（中間）決算報告、平成17年度事業計画案及び予算案が提案され、いずれも満場一致で承認されました。次に、平成17年度役員選出に移り、支部長に伊藤秀章氏、副支部長に辻喜礦氏が再選されました。なお、学会本部役員の任期（2年）と支部役員任期の周期を合わせるために、今回に限り、役員の任期は平成17年4月1日～平成18年3月31日の1年とすることとなりました。

新しい役員は下記の方々です。 一年間、よろしくお願いします。

	氏 名	所 属		氏 名	所 属
支部長	伊藤 秀章	名古屋大学エコビ ^o ア科学研究所	副支部長	辻 喜礦	(社)日本技術士会 中部支部
常議員	浅井 信義	(株)マキノ	常議員	池本 良子	金沢大学自然科学研究科
常議員	稲垣 順一	三重県科学技術振興センター	常議員	片山 新太	名古屋大学エコビ ^o ア科学研究所
常議員	加藤 明	日本ガイシ(株)	常議員	加藤 龍義	中部電力(株)
常議員	川合 和之	(株)INAX	常議員	木曾 祥秋	豊橋技術科学大学エコロジ ^o ー工学系
常議員	倉友 録治	福井資源化工(株)	常議員	近藤 元博	トヨタ自動車(株)
常議員	駒見 宗裕	佐藤工業(株)名古屋支店	常議員	志村 進	大同特殊鋼(株)
常議員	下郷 正人	(株)創建環境エンジニアズ	常議員	鈴木 憲司	名古屋大学エコビ ^o ア科学研究所
常議員	高見澤 一裕	岐阜大学応用生物科学部	常議員	土橋 弘	土橋技術士事務所
常議員	戸谷 満	玉野総合コンサルタント(株)	常議員	中崎 清彦	静岡大学工学部
常議員	中田 真一	富山市役所	常議員	中村 正秋	名古屋大学工学研究科
常議員	二宮 善彦	中部大学工学部	常議員	萩原 喜之	中部リサイクル運動市民の会
常議員	原口 紘 ^o	名古屋大学工学研究科	常議員	原田 秀樹	長岡技術科学大学環境シス ^o テム工学系
常議員	広瀬 幸雄	名古屋大学環境学研究科	常議員	福田 正	(株)三進製作所
常議員	藤江 幸一	豊橋技術科学大学エコロジ ^o ー工学系	常議員	藤澤 敏治	名古屋大学エコビ ^o ア科学研究所
常議員	藤間 幸久	(元)名古屋大学理工科学総合研究センター	常議員	堀内 将人	大同工業大学都市環境デ ^o ザイン学科
常議員	細井 要一	長野県環境保全研究所	常議員	松井 勲	中日本建設コンサルタント(株)
常議員	松浦 次雄	福井県工業技術センター	常議員	松田 智	静岡大学工学部
常議員	松田 仁樹	名古屋大学大学院工学研究科	常議員	松葉 基司	名古屋市環境局
常議員	柳下 正治	名古屋大学環境学研究科			

見学会へのおさそい

リサイクルの優等生

セメント工場（太平洋セメント藤原工場）と

三重ごみ固形燃料（RDF）発電所

日 時：7月19日（火）名古屋出発・・・11時45分集合，12時出発～18時30分頃解散
桑名出発・・・12時50分集合，13時出発～17時30分頃解散

集合場所：名古屋出発の方・・・JR名古屋駅「銀の時計」前

桑名出発の方・・・桑名駅東口改札口（2階）JR、近鉄ともに同じ駅を使用

交通手段：貸切バスにて見学します。

会 費：（会員、一般）2000円，（学生又は登録団体市民会議）1000円

定 員：50名

申込方法：申込書にて事務局までお申込ください。（定員になり次第締め切ります）



RDF

太平洋セメント藤原工場

所在地：三重県いなべ市藤原町東禅寺 1361-1

ホームページ：<http://www.taiheiyo-cement.co.jp>

廃棄物処理3R(Recycle/Reduce/Reuse)には、Reduce(抑制)や Reuse(再利用)ができなかった最終処理手段として Recycle(リサイクル)があります。セメント工場は、リサイクルの優等生と言われ、様々な廃棄物をセメント原料やキルンの燃料として利用しています。同社の製品や製造プロセスを通じた廃棄物リサイクルに対する姿勢、研究開発について見学、レクチャー、意見交換を実施します。

また、太平洋セメント藤原工場には、三重県が建設をすすめてきた灰水洗設備が完成しました。同県では、一般廃棄物処理を目的として、県下6市町村清掃事業組合で製造されるごみ固形燃料(RDF)を活用した発電事業を推進しています。この灰水洗設備は、発電所で発生した焼却残渣(ばいじん)のセメント資源化を目的としています。これらの背景には、平成15年11月20日に、セメントの規格(日本工業規格JIS R5210(ポルトランドセメント))を改正(20日から有効)されたことが大きく貢献しています。セメントの原料・燃料にリサイクルの目的で廃棄物(例：汚泥、焼却灰)等の使用を進めています。しかし、廃棄物中の塩化物イオンは、鉄筋の腐食の原因となるため、廃棄物の使用可能量に制限がありました。塩化物イオンの許容値を引き上げた(0.02%以下(従来)→0.035%以下(今後))ことで、廃棄物等の受け入れ拡大が期待できます。改正の結果、セメント1トン当たりの廃棄物等の受け入れ量は、従来の311kgから400kgに増加(年間の受入総量は、2,500万トン→3,000万トンに増加)します。

三重ごみ固形燃料(RDF)発電所

所在地：三重県桑名市多度町力尾

三重県企業庁のホームページ：<http://www.pref.mie.jp/KIGYOK/HP/>

三重ごみ固形燃料発電所情報：<http://www.pref.mie.jp/rdf/hp/index.htm>

桑名広域清掃事業組合のごみ固形燃料化施設に併設して設置するもので、県内6施設で製造されたRDFの受け入れを前提としています。平成15年7～8月にかけて、貯蔵槽の不備から発熱・爆発事故が発生しましたが、その後安全対策を施した貯蔵槽の建設を行うことになっています。

一般廃棄物の処理には、従来からの焼却処理の他、RDF 発電や熔融処理といったさまざまな処理方法が提案されています。いずれの処理方法にも一長一短があることも知られています。見学会を通じ廃棄物処理について改めて考えてみませんか。

職場紹介

名古屋市 環境局施設部 工場課

工場課長 松葉 基司

所在地：〒460-8508 名古屋市中区三の丸三丁目 1-1

TEL 052-972-2381 FAX 052-972-4131

Email:m.matsuba.ha@city.nagoya.lg.jp

名古屋市では、ごみ処理事業を環境局の三部署で行っており、主に減量施策を「ごみ減量部」、収集・運搬に関する施策を「事業部」、ごみの中間処理、最終処分に関する施策を「施設部」で実施している。今回紹介する工場課はこのうち施設部に属し、ごみの中間処理に関する技術的業務を担っている。また、工場課が所管する公所として、可燃ごみの処理を猪子石工場(千種区)、富田工場(中川区)、南陽工場(港区)、五条川工場(甚目寺町)の4工場で、不燃、粗大ごみの処理を大江破碎工場(港区)、天白中継所(天白区)で行っており、平成15年度実績では、年間73万6千トン余の可燃ごみ焼却処理と10万トン余の不燃ごみ、粗大ごみ等破碎選別処理を行っている。

工場課が所掌している業務は、以下のとおりである。

(1) ごみ中間処理施設の建設計画

清掃工場等の長期整備計画に関する検討等を行っている。当面の課題として現在閉鎖中の山田工場(西区)について、処理施設としての用途変更のための整備手法の検討を進めている。

(2) ごみ中間処理施設の設備保全・整備

上記既存清掃工場等の予算配分、運転計画、搬入調整など各種の連絡調整業務、施設整備工事にかかる設計、工事調整等の業務の他、各種工事、委託業務や工場、処分場にかかる環境調査、測定等を行っている。また、現在国庫補助事業として実施している旧南陽工場の解体、跡地整備事業などを進めている。

(3) ごみ中間処理施設の建設、改修工事

鳴海工場(緑区)改築事業に関し、本市のごみ処理施設として初めてPFI事業による施設整備、運営事業に着手した。今後は、事業を行う特別目的会社とPFI手続きに則り協議、モニタリングを進めていく。

(4) ごみ中間処理技術、再資源化技術、有効利用に関する調査、研究

ごみ中間処理施設に関する技術的研究、他都市状況調査などの他、特に最近では、焼却灰溶融スラグの有効利用に関する調査、研究等を進めている。



工場課の執務風景

市民向け公開シンポジウム

「地球環境を支える土の微生物」 ー生ごみ・リサイクルを考えるー

主催：日本土壌微生物学会 協賛：廃棄物学会東海・北陸支部

日 時： 6 月 11 日（土）午前 9 時 30 分より 12 時まで

場 所：名古屋大学野依記念学術交流館（名古屋市千種区不老町 名古屋大学東山キャンパス）
名古屋市営地下鉄名城線名古屋大学駅下車「出口 2」徒歩 5 分

費 用： 無 料

講 演

1. 地球の環境と土の微生物：木村真人（名古屋大学）
2. 食品循環資源のバックアップとしての覆土助材化：松藤康司（福岡大学）
3. 家庭菜園での堆肥作りを考える：藤原俊六郎（神奈川県農業総合研究所）
4. 地域での生ごみ（有機物）のリサイクル「世田谷を事例にして」
：後藤逸男（東京農業大学）

〇〇〇〇〇〇〇〇 編集後記 〇〇〇〇〇〇〇〇

平成 17 年度が 3 月の支部総会を経て新体制でスタートしました。支部長をはじめとして役員は 3 年目に入り、経験豊かな人々が揃った支部活動です。今年度は見学会や講習会、講演会、市民フォーラム等を支部長はじめ役員の総力を結集し、推進する予定です。また、会報も会員の皆様に役立つものにすべく心機一転努力します。そのために皆様の投稿を歓迎します。身近な話題をお寄せください。

役員一同、会員の皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。（K.S.）

〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇〇

廃棄物学会 東海・北陸支部 会報 No. 7

平成 17 年 5 月 15 日発行

廃棄物学会 東海・北陸支部 事務局

〒464-8603 名古屋市千種区不老町

名古屋大学エコトピア科学研究所

伊藤 秀章

TEL 052-789-5854

FAX 052-789-5849

E-mail hitoh@esi.nagoya-u.ac.jp